

## 1. 接続法 ③ 接続法の用法

【接続法】はどんな場合に必要？

- 接続法は基本的に単独で使われることは **ありません**。必ず「～と**思う**」「～であることに**満足だ**」といった、いわば枠のような構造を持った文の中に登場します。
- こうした枠に当たる部分を**主節**と呼びます。主節の動詞はもちろん直説法です。
- 接続法が必要になるのは、接続詞 **che** に導かれる**従属節の中**です。

### ◆ 話し手の **推量・推測**

Daniela crede che io **sia** cattivo.

(Mi) sembra che loro **escano** subito.

ダニエラは僕のことを意地悪だと思っている。

彼らは外出するらしい。

### ◆ **要求・要望** や **必要性**

Chiediamo che **risponda** il responsabile.

È necessario che voi **diciate** la verità.

私たちは責任者が回答することを求めます。

君たちは本当のことを話す必要があります。

### ◆ 満足・不満などの **感情表現**

※この場合、従属節の内容は事実であることに注意！

Siamo felici che Lucio **torni** in Italia.

Mi dispiace molto che tu **sia** ammalato.

ルーチョがイタリアに帰って来るので私たちは喜んでます。

私は、君が病気ののをとても残念に思う。

### ◆ **特定の接続詞** と組み合わせて

※ 接続法はまた、**benché**「～にもかかわらず」、**perché**\*「～となるように」等、**特定の接続詞**と組み合わせて使われることもあります。

Vogliono partire **benché** ci **sia** brutto tempo.

Porto qui la macchina **perché** **possiate** partire.

彼らは天候が悪い**にもかかわらず**出発しがっている。

あなた方が出発できる**よう**、私は車をここに持ってきます。

\*ここに登場した **perché** は、疑問詞（「なぜ～？」）でもなければ、理由を表わす接続詞（「～なので」）でもありません。下の例文と比較して下さい。従属節の中の動詞が直接法かそれとも接続法かによって意味が変わってきます。

Porto qui la macchina **perché** **potete** partire.

あなた方は出発できますので、車をここに持ってきます。